

Fresh Talk

～ フレッシュトーク ～

株式会社 Riverside

いちかわ てつ 市川 徹 さん



「経営者に近い目線で酪農に取り組んでいます。」

そう話すのは、家族と酪農業に従事する市川さん。

一時は、酪農業以外の道を意識していたといい「絵を書くのが好きだったのでアニメーターになりたいと思っていた時期もありましたが、いろいろ悩んだ末に、父と同じ農業高校に行くことと決意しました。」「実際に父と同じ学校で高校生活を送れたことは、進路を決めるうえで大きな部分を占めています。」と当時を振り返ります。

その後は、大学に進学し、人工授精師の資格を取得。卒業後は、富良野市の法人牧場で従業員として勤務し、経験を積んできました。

「雄武に戻ってきてからは、従業員としてではなく経営者に近い部分にいるので、今までと目線が違い、戸惑うことが多いですが、やりがいも感じています。」

「現在は、餌の配合を考えて作ることや、人工授精師としての業務を一任されています。特に牛の受胎率は、経営に直結する部分なので、自分がチャレンジした結果が数字としてはっきり表れる部分なので、そこが気が抜けないところですね。」と、日々試行錯誤を繰り返している様子。

「酪農業も、今後は厳しい時代になると思います。なので、いろいろなことに意欲的に挑戦していきたいです。」と、酪農経営者を目指して、目標に向かって日々努力を続けます。

雄武町民憲章（町民の誓い）

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生かし、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一 励まし合い、希望と自信をもって、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りとおすことを誓い合います。

- 一、自然を生かし、住みよい環境をつくりま。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくりま。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくりま。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくりま。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和 46 年 3 月 19 日制定

▼昨年は暗いニュースの多い1年でしたが、昨年末に周りでは同僚の結婚や友人の出産など、おめでたい出来事が続きました。私にとっての昨年は仕事に明け暮れた1年だったように感じます。今年は20代最後の年なので、私も何かいいことのある年にできればと思います。(大辻)

◆編集後記

Editor's note

▼あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で、皆さんも大変窮屈な思いをされたと思います。今年は、いつもの日常が戻ってきてたくさんのイベントなどで、皆さんのところに取材でお邪魔できる日が来ることを願っています。(結城)